

江差線（木古内・江差間）の概要（経緯）

1 旧 J R 江差線（木古内・江差間）の概要

- ・営業キロ：木古内～江差間 42.1 km
- ・列車本数：12本（上り6本、下り6本）
- ・所要時分：63分～71分
- ・駅数：10駅（有人3駅、無人7駅）
- ・運行廃止：平成26年5月11日（平成26年5月12日より代替バス運行）
- ・輸送密度：41人/キロ/日（平成23年度）

2 これまでの協議経過

- H24. 9. 3 J R 北海道が3町に対し、江差線（木古内・江差間）廃止を提案。
第1回 J R 江差線（木古内・江差間）対策協議会を設置
- H24. 10. 26～H25. 3. 1 第2回対策協議会～第4回対策協議会において、J R 北海道による地元支援策の協議・検討。
- H25. 3. 28 第5回対策協議会において、3町が J R 北海道の地元支援策を了承。鉄道事業廃止を合意。
- H25. 4. 26 J R 北海道が道運輸局に鉄道事業廃止届を提出
- H26. 5. 11 最終運行

3 J R 北海道の主な支援内容

(1) 代替バスの運行に対する支援

9億円を交付（平成26年度～平成28年度の3年間（3億円/年））。

- ・バス運行経費負担額の18年間分
（J R 木古内駅～江差高校の区間、6往復/日）
- ・初期投資等の費用
車両(当初購入：小型バス3台、更新：1回)、待合所、停留所

(2) 定期券利用者に対する支援

鉄道定期運賃とバス定期運賃の差額（通勤は1年、通学は在学期間）を助成。

(3) 鉄道用地等の処理

鉄道用地及び設備等の処理は、3町と J R 北海道との間で個別に協議。

4 代替バスの運行概要

○利用状況を踏まえた運行経路の設定

- ・江差高校や江差病院等を経由するなど、利用状況を踏まえ、利便性の高い運行経路を設定（木古内駅前～江差ターミナル～市街地、高校、病院等）

○バス停の増加による利便性の向上

- ・利用者の利便性に配慮し、51箇所のバス停を設置（J R 江差線の停車駅は、10駅）
※バス停数は経路により変動あり

○乗り継ぎ利便を踏まえたダイヤ設定

- ・始発を除く上り5本（木古内～江差間）及び下り6本（江差～木古内間）は、それぞれ、函館発及び函館行きの列車との接続が可能

○J R 江差線運行時の運行本数を維持

- ・J R 江差線と同様の12本（上り6本、下り6本）の運行本数を維持

5 代替バスの運行状況

(1) 輸送状況

区分	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9※2
輸送量 (人/km/日)	7.2 ※1	15.3	15.3	15.3
輸送人員	4,767人	35,014人	34,822人	34,911人
対前年比増減	-	-	▲192	89

※1 H26.5.1～H27.9.30運行分

※2 H28.10.1～H29.9.30運行分の計画値

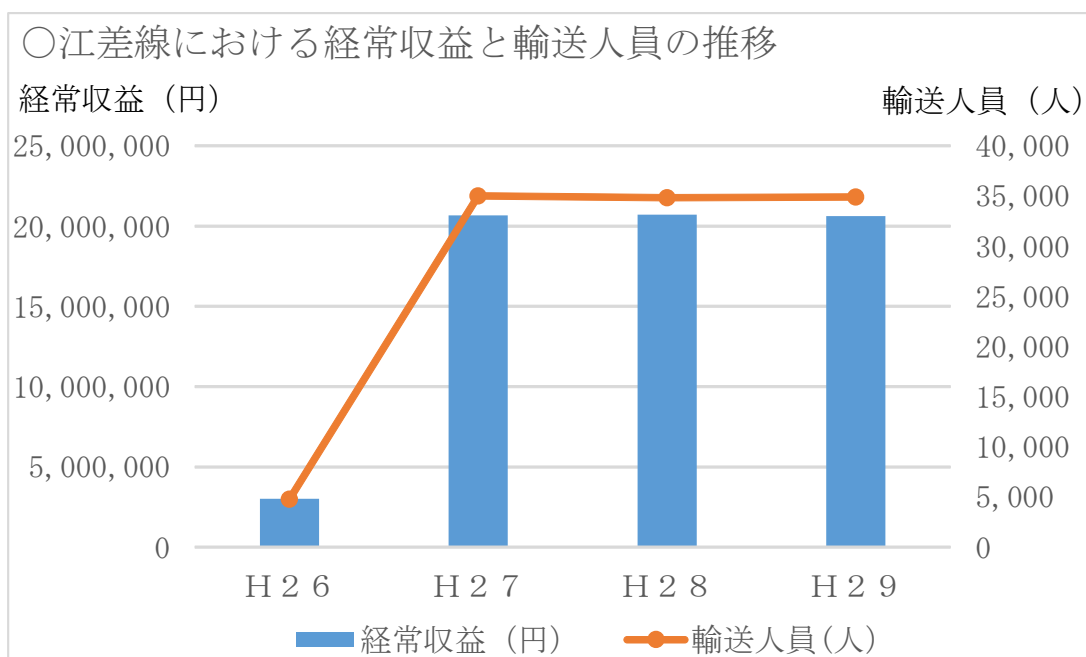
(2) 経常収益の推移

(単位：円)

区分	H 2 6※1	H 2 7	H 2 8	H 2 9※2
経常収益 [実績]	3,005,383	20,681,815	20,718,674	20,620,131

※1 H26.5.1～H27.9.30運行分の実績

※2 H28.10.1～H29.9.30運行分の計画値



6 意見交換の状況

- 沿線市町で構成する「JR江差線（木古内・江差間）対策協議会」等で意見交換を実施
- オブザーバーとして、函館バス(株)等が参加
(利用促進に係る意見)
 - 路線延長
 - 停留所の増設等